

川崎市長賞受賞作品

「テイクオフ！」

王禅寺中央小学校 6年生 白石 翔

「今日も、ワンワールドアライアンスメンバー日本航空をご利用下さりありがとうございます。本日は、機長になりました白石です。フライトは快適でしょうか。」

ぼくの将来の夢は、日本航空のパイロットになることだ。ぼくは、一才くらいの時から毎年おじいちゃん、おばあちゃんの家に行くために、飛行機に乗っていた。飛行機に乗ると必ず、飛行機の模型をもらうことができた。ぼくの家には、十数個の飛行機の模型があり、こわれているものもあるが、今でも大切に持っている。

小さいころから「カッコいいな」と思っていた飛行機について、四年生頃から色々調べるようになった。飛行機のことについては、図書館やお父さんの持っていた本を借りて、読んでみた。すると、中型機や大型機をたった二人でそうじゅうしてること、飛行機の浮くしくみは、揚力という力が働いていることなどを知った。

また、日本初の国産旅客機である YS-11 の設計図を写してみたり、自分で考えたもっと良い旅客機を設計してみたりもした。

ぼくは、航空機について知ることのできる博物館へ行ったり、実際のコックピットと同じものをさわることのできる所で、そうじゅう体験をしたこともある。そこで、手を動かし、声を出しながら「V1」「テイクオフ」「ギアアップ」などパイロットと同じことを体験した。飛行機のエンジン音がすると、ぼくは空を見上げている。今では飛行機を見るだけで、種類を見分けることができる。そのくらい、ぼくは飛行機が好きだ。そして、大好きな飛行機をそうじゅうしてみたいと思うようになったことが、パイロットになりたいと思うようになったきっかけだ。

ぼくが、パイロットになったら、安全に早く目的地につけるように心がけたい。ぼくがそうじゅうしている飛行機には、出張から帰ろうとしている人がいるかもしれない。または、旅行で目的地に向かおうとしている人がいるかもしれない。だから、色々なお客さまのために、ゆれないよう、早く目的地へお連れしようと思うのだ。どんな時も冷静に安全に運航するために大切なのは、「自分ですぐに判断する」ということだ。他の人にたよったり、判断を下すのがおそいと、事故につながると思うからだ。

だが、さらに大切なことをこの間知った。ぼくは、この前の家庭科の時間にけんかをした。それは、友だちから「お前」や「は？」などの言葉を言われたからだ。ぼくは、いつもお母さんに「言葉づかいに気をつけて。」と言われている。だから、友達からそのような言葉を何度も言われて許すことができず、イライラしてたいてしまった。後で先生、お父さんやお母さんとけんかについてたくさん話をした。そしてぼくは、気づいたことがあった。それは、友達はいつも変わらない話し方や、

相手に対する接し方だったのではないかということだ。さらに、ぼくは友達に自分と同じような言葉づかいをしてほしいと思うことにも気づいた。パイロットは、たくさん話して決めていくことがある。コックピットでは、相手のパイロットとそうじゅうについて話したり、飛行機が離着陸する時は、安全に離着陸できるように管制官と話をしたりする。また、機内の様子を知ったり、空の様子を知らせるためにクルーとも話す。パイロットという仕事には、安全のために様々な人と関わり、「伝え合う」ことが大切だと新たに分かった。

パイロットになるために、今のぼくにでもできることは二つあると思う。

一つは、友達のことをよく知ることだ。そのために、例えばたくさん友達の話聞いて友達の色々なことを知り、ぼくの話聞いてもらって、友達に、ぼくのことをたくさん知ってもらおう。そうすることで、話し合いや伝え合いがしやすくなる。

もう一つは、ぼくのいいところは今のまま大切にすることだ。どんなことでも自分の意見をはっきり言えたり、相手の意見をしっかり聞けたり、だれとでもすぐ仲良くなれること、やさしい言葉を使おうとしているところはぼくの良いところだ。

ぼくの足下には川崎の街が広がっている。ドドンダダダン、着陸だ。

「当機は東京国際空港、羽田空港に到着いたしました。本日のフライトは快適でしたか。また飛行機に乗る機会がありましたら、そこでお会いしましょう。今日も、ワンワールドアライアンスメンバー日本航空をご利用下さりありがとうございます。」